拡大図と縮図 まとめ

形を変えずに大きくした図・小さくした図。

拡大図・縮図とは

もとの図形の形を変えずに、すべての辺の長さを同じ割合で大きくした図を拡大図、小さくした図を縮図といいます。

大切な性質

① 対応する辺の長さの比は、どれも等しい（2倍の拡大図なら、どの辺も2倍）。

② 対応する角の大きさは、それぞれ等しい（角の大きさは変わらない）。

かき方

方眼を使う：ます目の数を2倍（1/2）にして、頂点をうつす。

辺の長さと角を使う：辺の長さを2倍にし、角の大きさは同じにしてかく。

1つの点を中心にする：中心から各頂点までの長さを2倍にのばした点を結ぶ。

縮尺とのつながり

地図は、実際の土地を縮めた縮図です。どれだけ縮めたかを表す割合を縮尺（1/25000 や 1:25000）といいます。